様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １２ 日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2014～2016
課題番号：２６５９０１９０

研究課題名（和文）教育研究のための質的研究方法論としての授業研究の再構造化の試みとその課題の解明

研究課題名（英文）Restructuring of Lesson Study as a qualitative research method for educational research and its problems

研究代表者
大谷　尚（Takashi, Otani）

名古屋大学・教育発達科学研究科・教授

研究者番号：５０１２８１６２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：授業改善や教師教育のために国際的に普及している授業研究を、質的研究方法論を用いて、教育研究手法として再構造化し体系化する研究を行った結果、以下が明らかとなった．(1)授業研究は質的研究の特別な形式であると認識できること．(2)そのため授業研究は、①研究目的の設定、②研究デザイン、③データ採取、④データ分析、⑤理論化、の５段階に再構造化できること．(3)その各段階と⑥概念的・理論的枠組みの利用、⑦結果の表象方法に質的研究方法論の知見が有効に活用できること．(4)今後、両者の固有性と共通性とをさらに検討し、両者の交流と成果の共有を行うことが、世界共通の教育研究言語としての授業研究に必要であること．

研究成果の概要（英文）：As a result of examination of restructuring and systematizing lesson study using qualitative research methodology followings were found. (1). Lesson study can be recognized as a particular style of qualitative study. (2).Therefore lesson study can be restructured as five steps of ①decision of research question, ②research design, ③data collection, ④data analysis,⑤ theorization. (3). Findings of qualitative study can be effectively applied to each steps and ⑥ application of conceptual and theoretical framework, ⑦presentation of result. (4). It is necessary for lesson study as international research language to examine how common and how different both are ,and to interact and share findings each other.

研究分野：教育学

キーワード：授業研究　質的研究　研究方法論　教育研究　研究言語

１．研究開始当初の背景

今日，日本の「授業研究」は、アメリカ，カナダ、ドイツ、フランス、中国、シンガポール、インドネシア、カンボジア、モンゴル、タジキスタンなどの多くの国で注目され、そこで急速に普及している．それはそれまで有効な授業改善の方法のなかった国々で、学校などの教育現場で授業改善のために活用されるとともに、教員養成大学等の教師教育の現場で活用されている．

このように諸外国では、授業研究は現時点で、主に授業改善や教師教育（養成教育・現職教育）の手段としてのみ普及している．それに対し日本では、授業研究は逐語記録を用いた「授業分析」によって、「教育研究」のための重要で有効な研究方法ともなっており、教育方法研究、カリキュラム研究、授業内コミュニケーション研究、児童・生徒の思考過程研究、学級・学校文化研究、学級経営研究、教師教育研究、異文化間教育研究、ジェンダー研究などの多様な教育研究領域で活用されている．そしてそれが、授業改善や教師教育のための授業研究と車の両輪となって、授業研究を発展させている．

それにも関わらずに授業研究が諸外国で教育研究のための方法として活用されていない理由は２つ考えられ、ひとつはそれが授業改善や教師教育の方法として紹介されたためである．

しかしもうひとつの理由は、研究方法論をリードする欧米の研究方法論の常識では、研究方法の厳密な検討によるその特性の解明と研究手法の体系性と構造性が求められているのに対して、教育研究方法としての授業研究にはそれがほとんど無いことである．たとえば、授業研究については、研究手法を評価する概念としての、測定の妥当性と信頼性、分析の主観性と客観性、研究プロセスの再現性(reproducibility, duplicability)と反証可能性(falsifiability)、知見の一般化可能性などの概念を用いた説明、検討、評価がまず行われていない．また、サンプリング理論などを用いた説明もなされていない．

しかしながらそのためには、授業研究の研究方法論としての特性が明確にされる必要がある．一般に欧米では、日本より格段に研究方法論の体系化とその体系的な教授や訓練、またそのプログラム化がなされているので、体系化・構造化がなされていない研究方法は信頼を得られず、用いられない．

２．研究の目的

そこで本研究では，授業研究を教育研究の方法論として再構造化し体系化することを試みる．その際，授業研究は主に逐語記録などの言語データ，つまり質的データを用いることから，授業研究を教育研究のための「質的研究方法論」であると位置づける．

本研究はこのことを通して，教育研究のための質的研究方法としての授業研究の諸特性を解明し，その全体を構造的に解明することを目的とした．

３．研究の方法

以下のような方法で研究を実施した．

（１）質的研究者で授業研究者でもある研究代表者と授業研究者である研究分担者の間での、大量の資料を提示しながらの定期的研究討議
（２）研究分担者の所属研究室が長年実施している郡部の小規模な小学校での授業研究のための学生実習（２泊３日）での研究代表者の参加観察とそれにもとづく研究討議
（３）本学を来訪したモンゴル、シンガポール等の諸外国の授業研究者との研究討議
（４）世界授業研究学会大会 World Association of Lesson Studies (WALS2017)（英国エクセター大学 2016.9.3-5）への出席と研究発表を通した諸外国の研究者との研究協議.
（５）モンゴル授業研究学会(Mongolian Association of Lesson Studies (MALS) 2016.10.23)での研究発表と討議
授業研究と質的研究の文献を利用した検討
（６）全体の総括

４．研究成果

授業改善や教師教育のために国際的に普及している「授業研究」は、逐語記録という質的データを用いた研究である点で、質的研究方法であると考えられる．そのため、質的研究方法論を用いて、授業研究を教育研究のための質的研究として再構造化し体系化する研究を行った．その結果、以下が明らかとなった．

(1)授業研究は質的研究の特別な形式であると認識できること．(2)そのため授業研究は、①研究目的の設定、②研究デザイン、③データ採取、④データ分析、⑤理論化、の５段階に再構造化できること．(3)その各段階と、⑥概念的・理論的枠組みの利用、⑦結果の表象方法に対して、質的研究方法論の知見が有効に活用できること．(4)今後、両者の固有性と共通性とをさらに検討し、両者の交流と成果の共有を行うことが、世界共通の教育研究言語としての授業研究に必要であること．

本研究は、現在主として授業改善や教師教育のための方法と認識されている授業研究が、国際的な普及に伴って、教育研究の手法としてより厳密で客観的な手続きを有するために有益であり、授業研究の「(逐語記録に依拠した授業分析化)」TBKA(Transcript Based Lesson Analysis)化のためにレリバンシーの高い研究であって、授業研究の発信国

である日本の国内的にも、また国際的にもオリジナルで有意義な研究である．実際に、国際学会等での発表時には、大きな反響があった．

この研究を契機として、今後、授業研究が教育研究の方法としても普及することが期待されるとともに、授業研究の方法を論じる際には質的研究手法についての理解が必要であるという認識が広く共有されることが期待される．それを通して、授業研究の教育実践や教師教育の方法としての側面と教育研究の方法としての側面が相互補完的に発展して行くことが期待される．

なお、この研究を通じて、臨床研究のリサーチクエスチョンの設定のための規準である The FINER (Feasible, Interesting, Novel, Ethical, Relevant) Criteria が、授業設計や授業評価の際の教材選択のための規準としても有効に適用できるという新たな知見が得られた．これについての発表に対しても、教育実践者や教育研究者から反響があった．

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　5　件）

① Yoko Hirayama, Masato Matsushima, Takashi Otani (2017). Japanese citizens' attitude toward end-of-life care and advance directives:a qualitative study. *Journal of General and Family Medicine*. 【Original Article】（査読有り）

② Masayo Kojima, Takeo Nakayama, Takashi Otani, et.al. (2017). Integrating patients' perceptions into clinical practice guidelines for the management of rheumatoid arthritis in Japan. *Modern Rheumatology*.【Original Article】
DOI: 10.1080/14397595.2016.1276511（査読有り）

③ 大谷 尚(2016) 質的研究とは何か －実践者に求められるその本質的で包括的な理解のために－.学校健康相談研究 Vol.13 No.1.2-13（査読有り）

④ 大谷 尚(2016)質的研究とは何か：その意義と方法，日本歯科医師会雑誌，68(12)，日本歯科医師会,1125-1134, 2016 年 3 月（査読有り）

⑤ 柴田好章・須田昂宏・丹下悠史・中道豊彦・水野正朗・深谷久美・野村昂平・胡田裕教・坂本篤史.(2015).授業記録にもとづく授業分析のための手法に関する試験的研究.名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要(教育科学)巻 ：62(2) 87-106（査読あり）

〔学会発表〕（計　22　件）

① Takashi Otani. (2016). Utilization of Qualitative Research Method in Lesson Study. Mongolian Association of Lesson Studies, Mongolian National University of Education, 2016.10.23

② 大谷 尚・安藤りか.(2016).質的データ分析手法 SCAT 入門」日本質的心理学会第 13 回大会，名古屋市立大学【研究法セミナー：招待講演】2016.9.24

③ 大谷 尚.(2016).質的研究との出会いから今日まで.日本教育工学会第 32 回全国大会，SIG セッション 1 SIG-09：質的研究，大阪大学【招待講演】2016.9.17

④ 大谷 尚.(2016).価値を測定しないことの価値 −質的研究は測定せずに対象に迫る−.日本社会薬学会第 35 年会シンポジウム 2『薬剤師の価値をどう測るか？』．北海道薬科大.【招待講演】2016.9.11

⑤ Takashi Otani.(2016). Lesson Study and Qualitative Study: The Significance of their Interaction. The World Association of Lesson Studies (WALS) International Conference 2016, University of Exeter, 2016.9.4

⑥ 大谷 尚.(2016).医学教育研究における研究倫理．第 48 回日本医学教育学会大会．大阪医科大学．プレコングレスワークショップ 2【招待講演】2016.7.28

⑦ 大谷 尚.(2016).質的研究とは何か．日本薬学会第 136 年会,一般シンポジウム S65 薬学教育研究における質的データの活用とその意義，パシフィコ横浜会議センター，【招待講演】2016.3.29

⑧ Yoshiaki Shibata. (2015). Prospect of transcript based lesson analysis for trans-national learning. The symposium on Cross-cultural inquiry for customized teaching and personalized learning: from prospect of transcript based lesson analysis). World Association of Lesson Studies (WALS) International Conference 2015. Khon Kaen, Thailand. 2015.11.23-27

⑨ 大谷 尚.(2015).質的研究方法論 −その理論的で実践的な理解をめざして−．第 23 回日本介護福祉学会大会「地方から拓く介護福祉の未来 ～介護福祉・健康寿命と健康科学～」．金沢市文化ホール．【学会企画講演】

2015.9.27

⑩ 平野美保・大谷 尚・柴田好章.(2015).コミュニケーション能力向上のための音声表現スキル学習プログラムの開発と評価：授業方法に対する学習者の受け止め方からみた効果.日本教育工学会第 31 回全国大会.電気通信大学.2015.09.21-23

⑪ 大谷　尚.(2015).「教育研究のグランドデザイン −質的研究セミナーと質的歯学教育研究プロトコルワークショップ」. 第 4 回歯科医学教育を議論する研究集会. 第 34 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会. 鹿児島県民交流センター.【プレコンファレンスセミナー・ワークショップ】2015.7.9

⑫ 大谷 尚.(2015).「質的研究とは何か −薬学教育研究におけるその意義と機能−」日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会第９回大会「テーマ：医療コミュニケーション教育、研究の再構築　−問題解決型教育と質的評価研究をめざして−」. 星薬科大学.【特別講演】2015.5.24

⑬ Takashi Otani, (2015). Functions and significance of qualitative research methodologies in educational research. Education Research Innovation Development 2015, Best Western Premier Tuushin Hotel, Ulaanbaatar, Mongolia.【Keynote Address】2015.5.1

⑭ Hiroshi Nishigori, Takashi Otani, Muneyoshi Aomatsu. (2015).Qualitative Data Analysis –SCAT (Steps for Coding and Theorization) As A Practical Tool. 12th APMEC (Asia Pacific Medical Education Conference) & 3th ICFDSP (International Conference on Faculty Development in the Health Professions). Centre for Translational Medicine (CeTM), National University of Singapore, Singapore.【Pre-Conference Workshop】2015.2.4

⑮ Yoshiaki Shibata, Hiroyuki Kuno, Hoseong Cheon, & Atsushi Sakamoto. (2014). Using Transcript-Based Lesson Analysis for Reorienting the Cultural Script of Teaching, presented at the symposium on Transcript-Based Lesson Analysis for Learning beyond Boundaries. World Association of Lesson Studies (WALS) International Conference 2014. Indonesia University of Education, Bandung, Indonesia. 2014.11.25-28

⑯ 坂本篤史・須田昂宏・深谷久美・野村昂平・中道豊彦・柴田好章.(2014).授業分析における記述データの全体構造の図示化に関する研究.日本教育方法学会第 50 回記念大会.広島大学. 2014.10.11-12

⑰ 丹下悠史・水野正朗・田中眞帆・柴田好章・胡田裕教.(2014).［学会発表］オントロジーを援用した授業分析手法の開発－複雑な対立関係にある発言間の関連構造の解明－. 日本教育方法学会第 50 回記念大会.広島大学. 2014.10.11-12

⑱ 平野美保・大谷 尚・柴田好章.(2014).「コミュニケーション能力向上のための音声表現スキル学習プログラムの開発と評価：ICE モデルを用いた授業デザイン.日本教育工学会第 30 回全国大会. 岐阜大学. 2014.9.21

u 柴田好章・田中眞帆.(2014). [学会発表] 教育専門職の授業洞察力を高めるための可視化手法の開発(1)－専門的な意思決定を支える推論形式の検討－. 日本教育工学会第 30 回全国大会. 岐阜大学.2014.9.19-21

⑳ サルカール アラニ モハメッド レザ・柴田好章.(2014).授業の文化的スクリプトの複合的構造の解明－比較授業分析を通して－.日本カリキュラム学会第 25 回大会.関西大学.2014.6.28-29

㉑ Takashi Otani. (2014). “What are the barriers to introduction and implementation of novel educational methods?”. International Research Conference “A NEW CENTURY TEACHER COMPETENCES”. Mongolian State University of Education. 2014.5.8

㉒ Takashi Otani. (2014). “How Technologies are Transformed and Nullified in Classrooms”. ICT in EDUCATION: Digital Pedagogy, Learning Technology, Teachers and OER. Mongolian University of Science and Technology. 2014.5.6

〔図書〕（計　2　件）

① 柴田好章.(2017).「日本の授業研究と世界の Lesson Study」「シンガポールにおける Lesson Study」：日本教育工学会監修、小柳和喜雄・柴田好章編著『Lesson Study』.ミネルヴァ書房

② 柴田好章.(2016).中学校におけるアクティブ・ラーニングの可能性と課題：日本教育方法学会編「アクティブ・ラーニングの教育方法学的検討（教育方法 45）」図書文化社

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

SCAT: Steps for Coding and Theorization 質的データの分析手法
http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~otani/scat/

SCAT: Steps for Coding and Theorization Qualitative Data Analysis Method
http://www.educa.nagoya-u.ac.jp/%7Eotani/scat/index-e.html

６．研究組織

(1)研究代表者
大谷　尚（OTANI Takashi）
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・教授
研究者番号：50128162

(2)研究分担者
柴田好章（SHIBATA Yoshiaki）
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・教授
研究者番号： 70293272

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）